

旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
2023年8月6日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙 祷		一 同
讃 美※	聖 歌 497「輝く日を仰ぐ時」	一 同
主の祈り※	(聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください)	
讃 美	聖 歌 327「村の小さき教会」	一 同
教会学校	絵 本「イサクの息子たち」	牧 師
讃 美	聖 歌 580「祈りすれど」	一 同
聖書朗読	使徒行伝5:26-33	
奨 励	使徒行伝の福音(第17回)	牧 師
主 題	「人より神に従おう」	
讃 美	聖歌418「あなたの罪あやまちは」	一 同
献 金	献金と感謝の祈り	
聖 餐		
頌 栄※	聖 歌 379「主よ、このところを」	一 同
祝 祷※		牧 師
来週の箇所	使徒行伝 5:34-42	

※印のところでは御起立下さい。

- ☆ はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申し上げます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
- ☆ 私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
- ☆ 献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです(2コリント9:7)。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
- ☆ キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
- ☆ 第二礼拝後、軽食を用意しておりますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
- ☆ 二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会 ニュース



《今週の歩み》

8/6(日)聖日礼拝
/7(月)
/8(火)
/9(水)
/10(木)10:00祈り会
/11(金)《山の日》
/12(土)13-16子供オプンハウス



《祈りの課題》

- ① 家族の救いのために
- ② 礼拝に來れなかった人々のために
- ③ 教会学校の子供たちが救われますように

静恩の時の為に

ヘブル書 Devotion 第10回

「希望を告白し続けよう」

(ヘブル10:19-31)

「ヘブル書」を三つの説教からなる初代教会の説教集であるとするならば、第10章は第二説教の結論部分に当たります。18節までの前半でこれ迄の要約が述べられ、19節から始まる後半が全体の結論を語っているわけです。

「こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスをご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。」(10:19,20)この「垂れ幕」が思い起こさせるのは、主イエスの最期の時に真っ二つに裂けた神殿の幕のことです：

「さて、時はすでに十二時ごろであった。全地が暗くなり、午後三時まで続いた。太陽は光を失っていた。すると神殿の幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。『父よ。わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。』こう言って、息を引き取られた。」(ルカ23:44-46)

主イエスが命懸けで開いて下さった「新しい生ける道」なのだから、愛と善行に励み、希望を告白しつつ礼拝をしっかりと守りましょう、と信仰の確信に立って歩むようにと呼び掛けるのです(23-25節)。そして、第二説教の結論に先立って、説教者は警告することも忘れません(10:26,27)。これは耳に痛い言葉です。しかし、信仰が揺さぶられている人々への警告という形の、真剣で切実な訴えなのです。

中学・高校の6年間、教会に通った私の結論は、十字架も復活もナンセンス。「恐ろしい神様、もう結構！」だったので、進学したミッション系大学では毎朝チャペル礼拝があったのですが、在学中ほとんど出席しませんでした。

やがて卒業・就職後暫くして、ギックリ腰と風邪・借金苦に精神的落ち込みが加わり、蟻地獄のような苦しみに襲われました。そのとき「何事でも私の名によって願うならば、私はそれをかなえてあげよう」(ヨハネ14:14)というイエス様の言葉が思い出され、藁をも掴む思いで「神様、助けて下さい。イエス様のお名前によってお願いします」と祈ったときに平安が与えられたのです。その平安の中で、自分がそれまで犯してきた様々な罪が走馬燈のように思い出されました。「今となっては償えない！」と絶望しかけた時、十字架のイエス様の言葉が響いてきたのです。「父よ、彼らをおゆるしく下さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23:34)。初めて十字架が分かった瞬間でした。そして復活は、この方がキリストであることの比類無き証拠であり、この全ての事を為してくださった神は愛の方だと信じる事ができたのです。

23節の御言が心に響きます。「約束してくださいました方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。」